

## ■160712-13 こども環境学会 熊本こども成育環境状況調査 2016.07.14 佐久間治

### ■調査まとめ

現在、4月14日地震発生から3ヶ月となり、地震初期の緊急支援の事態は収束しつつあるが、益城町、御船町、嘉島町、南阿蘇西原村等ではかなりの被害を受けているため、その復興にはまだまだ時間を要する状況である。今回の調査当日、特に7月13日は豪雨で警戒警報発令が発令されており、まだまだ2次災害等の危険が多いことも肌身で感じた。

また、被災者の生活環境の状況としては、現在は、避難所から仮設住宅へ引越を行う移行期を迎えており、被災市町村では熊本県が主体(熊本市は別)となり仮設住宅の建設がすすんでおり、全体で、60箇所以上の団地が予定されている。よって、その移行が本格化すると、被災した子どもたちの生活環境も、また、大きく変化することが予想され、その状況へのケアも重要と考える。

そのような状況化、今回のこども環境学会としての、保育園、幼稚園等への支援のための2次調査としては、3つの視点を重視して実施した。ひとつは、再開した保育園、幼稚園等で、どの地域のどのくらいの数の園が、どのような課題を持っていて、学会としてどのような支援が可能なのかという点。第2には、避難所から仮設住宅へ移行期における子どもたちや子育て世代の方々の課題はどのような点であり、それらが幼稚園や保育園、学童保育等との関係性としてどうなのか？そして、3つ目はそれらの子どもたちの保育・教育環境・あそび・生活環境の支援のために、どのような組織と、どのような連携が可能かという点である。

以上を目的として、今回、以下のような訪問調査を行った。

#### ○被災保育園、幼稚園の被害現況調査:

保育園、幼稚園の被害状況を調査するために事前に、電話でヒヤリングを実施したが、熊本市子どもみらい部子ども支援課からはプライバシーの問題で特定の園の被害についての情報提供は難しいという回答、熊本ユニセフ協会とさくらんぼ保育園からは、問い合わせ後、2週間以上時間が経っているが、今だ未回答であったため、熊本県健康福祉部子ども・障がい福祉局子ども未来課に連絡をとって相談し、直接面談による打合せであれば情報提供可能ということで、今回、県庁へ訪問調査を行った。また、同時に別のルートで熊本県土木部建築住宅局建築課の方々とも情報交換を行った。

#### ○被災保育園へのヒヤリング

具体的な被災幼稚園として上益城郡御船町の滝尾幼稚園を現地調査し、古閑園長にヒヤリングを行うことで、学会からの支援として何が可能かについて意見交換を行った。園長からは被災した保育園では、徐々にスポーツや身体活動を中心にした保育活動や、避難訓練を多数行うことで、園児の地震への恐怖が減少していることを伺った。また、支援のあり方については、森の幼稚園や人形劇、カウンセリング等については単発であり、継続的ではないが、それを回数を受け入れることでうまく対応するようにしていることを伺い、そのようなソフト支援も内容次第では有効と伺う。建物や園庭空間については、実際の被害がある園では、その修復工事、予算等が一番大きな課題であり、経済的な支援が求められていることが一番と感じた。

#### ○地元保育専門家有識者との情報交換

地元熊本で長年、こどもの子育て環境向上に尽力されてこられた尚綱大学名誉教授で子育て研究者である浜崎幸夫先生、および、熊本学園大学社会福祉部福祉環境学科の高木亨先生と、今後の子どもたちの保育・教育・成育環境支援のあり方について意見交換を行い、現在、保育園は目の前の保育活動等で精一杯であり、支援としてほしいのは人の手ということで、保育士や、被災した園の修理等の人出不足が指摘されていた。ただ、今回の自然災害を期に、子どもたちを自然から遠ざげるのではなく、自然の中で遊ばせて、心身を開放し、鍛えることで、情緒豊かな成育可能となることを、訴えていくことは重要ではないかという指摘があった。よって、福島支援から学ぶ知見として、こどもが自然あそび、外遊びをしないことの弊害を訴え、その知見を熊本の保育園、幼稚園支援につなげていくことは有意義ではないかと感じた。

#### ○まとめ

以上の意見交換、現地踏査を通じてのまとめとしては、今回の地震は局所的に被害の状況が異なるので、ある意味、各園の被害状況は、まちまちであり、対応もまちまちであるので、そこへの支援内容も訪問してみないと解らないことがわかった。よって、学会支援の方向としては、いくつかの情報源から得た、物理的に被害のあった園に連絡をとって必要とされている園をピックアップし、東日本から得た保育教育活動の復旧のための知見を配布したいというスタンスで訪問し、そこで、福島からの知見として、自然あそび、外遊びの重要性を訴え、余震の恐怖に打ち勝つためにも、そのような自然に関連した保育やあそび、身体活動の実施が、ある意味、子どもたちの心身の復興に繋がることを伝えていくことが重要と思われる。また、そのための効果的なソフト・ハードの知見の提供も、マニュアル化していく重要性を改めて感じた。

**7月12日**

	内容	場所	住所	受入先	参加・同行
16:00 ~ 18:30	■熊本県土木部建築住宅局建築課 意見交換	熊本県立大学(KASEI((九州建 築学生仮設住宅環境改善)第1回 実行委員会 会場にて)	熊本県熊本市東区月出3 丁目1-100	県土木部建築住宅局建築課 原井 正氏他・県立大学佐藤哲准教授	佐久間

**7月13日**

9:00 ~ 11:00	■熊本県健康福祉部子ども・障がい 福祉局子ども未来課 意見交換	熊本県健康福祉部子ども・障がい 福祉局子ども未来課	熊本県熊本市中央区水前 寺6丁目18番1号	熊本県健康福祉部子ども・障がい 福祉局子ども未来課 奥山晃正課 長、引掛邦彦総務・幼稚園班主幹、 堀賢一郎氏	佐久間
13:00 ~ 14:45	■認定こども園 滝尾幼稚園 意見 交換	認定こども園 滝尾幼稚園	熊本県上益城郡御船町滝 尾6257-9	古閑栄美園長	佐久間、柿本
16:00 ~ 17:30	■地元保育有識者意見交換	熊本学園大学社会福祉学部	熊本県熊本市中央区大江 2-5-1	尚綱大学名誉教授 浜崎幸夫先 生、熊本学園大学社会福祉部准教 授 高木亨先生	佐久間
19:00 ~ 21:30	■熊本県土木部建築住宅局建築課 意見交換2	熊本県甲佐町白旗仮設住宅団地	熊本県上益城郡甲佐町白 旗	県土木部建築住宅局建築課 西村 親明氏他	佐久間